

命の大切さと助け合う心 ～震災の教訓から～

阪神淡路大震災のことを知っていますか？

尊い命、大切な人、住んでいる家、仕事、学校を一瞬のうちに奪われた平成7(1995)年1月17日。その日から助け合いがんばってきた人たち。

その後も各地で様々な災害が起こっています。災害の記憶をつないでいくにはどうすればよいでしょう？



災害と助け合いについて

阪神・淡路大震災の後も、地震・洪水・火山の噴火など数多くの自然災害が発生しました。

とりわけ、平成23(2011)年3月11日に発生した東日本大震災では、死者・行方不明者が約二万人と、阪神・淡路大震災を大きく上回る未曾有の災害となりました。震災により発生した大津波や原発の事故により、多くの人が困難な状況に置かれています。

そのような中でも、全世界から多数の支援や励ましのメッセージが届けられています。

神戸市が阪神・淡路大震災で被災した際、内外の数多くの支援により、多くの人が助けられたことや、神戸市が復興したことを知っておいてください。

そして被災地への助け合い、思いやりの心を大切にして、私たちに何ができるかを考えてみましょう。

一・一七希望の灯り 碑文

一九九五年一月二七日午前五時四六分

阪神・淡路大震災

震災が奪ったもの

命 仕事 団欒 街並み 思い出

：たった一秒先が

予見できない人間の限界：

震災が残してくれたもの

やさしさ 思いやり 絆 仲間

この灯りは

奪われた

すべてのいのちと

生き残った

わたしたちの思いを

むすびつなぐ

(中央区東遊園地内)

一・一七希望の灯り碑文 より)

